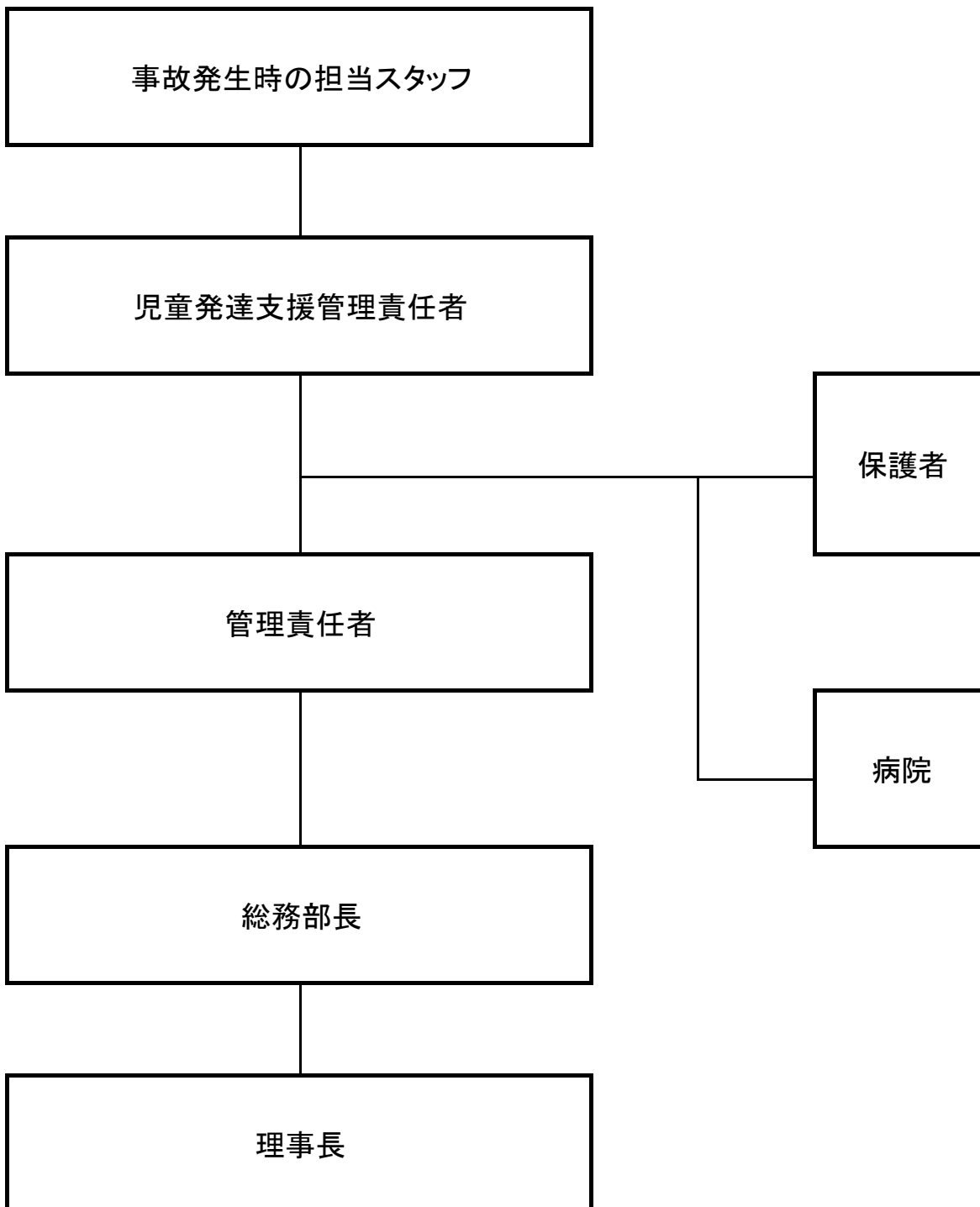


緊急時対応マニュアル

あべのキッズプラナ

<緊急時の連絡網>



1.地震対応マニュアル

【地震発生時の対応】

「震度5以上」の地震が発生、または警戒宣言が発令された場合。
※震度を問わず、交通機関や学校の状況、余震の可能性などにより判断は下記の限りではありません。

◆事業所でお預かり中

避難行動をとり、利用児童の安全を確保したうえで、下記の場所へ避難します。
電話回線がパンク状態になると予想されるため、直接避難場所へお越しください。

初期避難場所: 泰清寺の駐車場

広域避難場所: 大阪府立阿倍野高等学校 (住所: 阿倍野区阪南町1-30-34)

◆在宅時・在校時

余震の心配もある為、事業所でのお預かりはお休みとさせていただきます。

経過	行動
地震発生 ※1分程度	★身を守る ・室内では、家具や冷蔵庫などから離れて、机やテーブルなどの下にもぐります。 ・屋外では、塀やビルのそばから離れます。 ★脱出口の確保 ・ドア、窓を開けて出入り口の確保します。 ★傾斜地では、安全な場所へ避難
揺れが収まったら ※2~3分	★出火したら消火 ・IHクッキングヒーターなどの火を消すこと。 ★利用者の安全を確認 ・倒れた家具などの下敷きになっていないか確認します。 ★靴を履く ★外に出るときは慌てずに ※防災頭巾を着用 ・ブロック塀、自動販売機、川などには近づかない!
全員の無事を確認 火災の発生を防ぐ ※3~4分	★行方不明者や怪我人がいないか確認 ★漏電、ガス漏れに注意 ★火災が発生した時は大声で知らせる ★電話は、消防車や救急車を呼ぶときなど緊急連絡を優先する
ラジオなどで 正確な情報をつかむ ※4~5分	★避難するときは徒歩で、避難バックを持ち出す (自動車での避難は行わないこと) ★正しい情報を聞く
10分以上⇒5日間	★災害情報、被害情報の収集 ★余震に注意する ★保護者のお迎えを待つ

◎避難バッグの中身

使い捨てマスク・使い捨て手袋・紙パンツ(事業所預かり対象利用者分)・ヘッドライト4つ(電池稼働のため予備電池数本ずつ)・絆創膏・三角巾・レスキューシート1枚(防寒対策)・サージカルテープ・消毒アルコール

2.風水害対策マニュアル

【警報発令時の対応(大雨・台風・雪の日など)】

◆暴風警報発令時

- ①7:00の時点で暴風警報発令→お休み
- ②8:00の時点で解除→通常時間でオープン
- ③9:00の時点で解除→11:00よりオープン
- ④午前中(10:00～12:00)に解除→13:30よりオープン

※ただし、安全を確保できないと判断した場合はお休みとなる場合もあります。

※施設周辺の状況を確認し、受け入れ可能と判断した場合、お預かりいたします。

※サービス提供時間中に、特別警報や暴風警報、暴風雪警報が発令された場合、もしくは発令が予想される場合、保護者に連絡し、早めのお送りをさせていただきます。

◆学校預かりの場合

- ・学校が下校は保護者への引き渡しと判断した場合、事業所はお休みです。
- ・学校が児童たちで下校させる場合、保護者からのご連絡に従います。

屋外の点検	★窓や雨戸・アンテナ・窓ガラスなどを必要に応じて補強する。 ★植木や小物など飛ばされやすいものを取り込む。 ★床上浸水の恐れがある場合は建物の二階に上がる。
屋内の点検	★停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオを準備する。 ★気象情報を注意深く聞く。 ★断水に備えて飲料水を確保する。 ★火の始末、戸締りを確実にを行う。

3.火災時の対応

①通報連絡

- ・119番通報

(火災か救急かの種別、住所、目標、火災の内容など)

住所:阿倍野区阿倍野筋4丁目13番20号

目標:泰清寺の南側

- ・防火管理者に連絡し、指示を受けます。

②消火活動

- ・消火器を使って、消火活動を行います。

③避難誘導

- ・避難口(出入り口)を開放し、避難口まで利用者を誘導する。

4.不審者が施設に侵入したとき

利用者を安全な場所に避難させ、「110番」通報。
状況を見て、事務所など施錠できる部屋で警察の到着を待ちます。

5.インフルエンザ・ノロウイルス等、感染性疾患のとき

学級閉鎖・学校閉鎖のいずれかに該当し、もしくは感染性疾患であるとの診断を受けた場合、
登所をお断りします(学校での対応に準じて事業所の利用も控えていただきます)。
事業所内で発生したときは、お電話で対応を保護者に連絡します。

◆予防対策

利用時は、到着時・昼食・おやつ・トイレ後に手洗いをし、その後アルコール消毒を実施します。
食事の前には必ずテーブルのアルコール消毒を行います。
事業所設備やおもちゃの除菌の実施・嘔吐処理セットの常備・嘔吐時には適切に処理します。

6.怪我等での救急通報

①「救急です」

119番につながったら、まずはっきりと「救急です」と言う(=火事ではない)。

②場所(住所)を告げる

◆事業所内で起きた場合は、事業所の住所を言う。また、目標(目印)となる建物なども告げる。

住所:阿倍野区阿倍野筋4丁目13番20号

目標:泰清寺の南側

◆外出先で起きた場合は、公園や通過する大きな交差点や目立つ建物などの名前を伝える。

③事故の状況を説明する

「誰が」「どうしたのか」を正確に分かりやすく伝える。

時間、年齢、転落であればどの程度の高さから落ちたのか、呼びかけに対する反応、打った箇所、
誤嚥であれば詰ませたもの、唇の色の状態 等。

※こうした情報は救急を要請するときだけでなく、

ヒヤリハットや事故の情報を共有するときにも重要です。

④通報者の氏名と連絡先を告げる

「私の名前は～、電話番号は～」と告げる。

外出先におり携帯電話から通報している場合は携帯電話であることも告げる。

【利用者が怪我をした時】

利用者同士のトラブルや関わりの中で起きた怪我の場合には、双方の保護者に連絡し状況を報告します。

◆応急処置

- ・傷口の手当、血液の処置を行う際には使い捨て手袋を使用する等、感染症対策を行います。
- ・頭を打ったとき等は、直ちに病院に連れて行き受診をし、必要に応じてレントゲン撮影を行います。
- ・怪我が軽い時は応急処置を行い、様子を見ます。
- ・嘔吐など異変が見られた時は、直ちに病院に行く体制を取っておきます。

「擦り傷」ができた場合

擦り傷の場所には、小さな砂やゴミなどが入りますので、その砂やゴミを水道水で洗浄して取り除いてください。取り除くことが出来れば消毒液を使つての消毒は必要ありません。

「火傷」を負ってしまった場合

服の上から熱湯をかぶったとしても、慌てて服を脱がしてはいけません。ひどいやけどの場合は、皮膚と一緒に剥がれてしまうおそれがあるので服を着たままで、冷水をかけて服ごと冷やしてください。冷やす際は、大量の水道水で約20分を目安に冷やしてください。水ぶくれはつぶさないでください。火傷の深さは、火傷を負った2日後くらいからハッキリしてくるといわれています。もし、患部に異常を感じたときは、速やかに医療機関を受診させてください。

「突き指」をしてしまった場合

患部を弾性包帯やテープなどで固定し動かさず、なるべく安静に過ごしましょう。

氷や冷水、冷感シップなどで患部を冷やします。

内出血し腫れがひどい場合は、包帯などで軽く圧迫してください。ただし長時間強く圧迫しすぎると血液循環が悪くなってしまうので、あまり強く圧迫しすぎず、数時間ごとに巻き替えるようにしてください。

腫れや内出血、うっ血などを防ぐために、患部を心臓より高い位置に挙げておきます。

もし、患部が足の場合は、横になってクッションなどに足を乗せると良いでしょう。

「熱性けいれん」が起きた場合

一般的には38度以上の熱があるときに起こります。たいていは2～3分でおさまりますが、10分以上続く場合などは危険なので、以下の対処法を行ってください。

1、けいれんの時間を計測する

:10分以上続く場合や、意識が戻らないままけいれんを繰り返す場合などは救急車を呼んでください。

2、嘔吐で窒息しないように、横に寝かせるなど体勢を工夫します。

:タオルなどを口に入れると、窒息の原因になるのでNG！

3、大声で呼ぶ・ゆするなどはNG:刺激でけいれんが長引くことがあります。

4、意識がはっきりするまで、薬・飲物を与えない:気管に入ることがあります。

5、けいれんが終わるまで、必ずそばにいますようにしましょう。

「鼻血」が出た場合

- 1、左右の小鼻のところを外側からしっかりつまむように圧迫します。
- 2、横にならず、椅子などに座って、頭の位置を心臓より高くしておきます。
- 3、ある程度止血できたら、綿やガーゼを丸めたものを鼻の穴にかるく詰め、この状態のまま少しうつむき、“考える人のポーズ”をして、15分間動かないようにしてください。

「たんこぶ」が出来た場合

出来た原因と本人の状況を確認してください。

- 1、意識がしっかりしているかどうかを確認します。
- 2、意識がない場合は脳へダメージが加わっている場合があるので、急いで病院へ行く必要があります。
- 3、意識があった場合でも、吐き気やめまい、ふらつきを感じる場合は脳が損傷を受けていることがあるので病院へ行必要があります。
- 4、たんこぶから出血した場合は、しっかり消毒を行いましょう。頭部は毛細血管が多いので出血した場合血の量が多くなることがあるので、化膿しないように手当てを行いましょう。
- 5、頭部からの出血が無くても、鼻血や口から血が出る場合は脳が損傷を受けている可能性があるため、念のため病院に行った方が良いでしょう。
- 6、状況を確認した際に通常のたんこぶだった場合は、冷やすことを優先してください。
たんこぶが出来ているということは、内部で出血が起きているということになります。
冷やすことにより血管を収縮させることが出来るので、たんこぶが大きくなるのを防ぐことができます。
間違えて温めてしまうと、血管を膨張させてしまい症状が悪化することになるので気をつけましょう。
さらに冷やすことで痛覚を麻痺させることが出来るので、痛みを和らげる効果も期待できます。
患部に熱を加えないようにすると症状が悪化するのを防げるので、6時間は触れたりして熱を加えるのを防ぐようにしましょう。

協力医療機関:医療法人 千寿会 ヒグチ外科

(住所:大阪市東住吉区中野1—5—6)

(電話:06—6702—1205)

このマニュアルは平成30年7月1日より改定する。